



## 【思考力、判断力、表現力等 A話すこと・聞くこと】における学習支援ツールの活用（小学校）

資質能力	ICT活用方法	期待できる効果	活用例
話し合いの設定・情報の収集・内容の検討	<b>○情報の収集・整理・共有</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマに沿って各自情報収集し、タブレットに保存する。集めた情報は、他の仲間と共有することもできる。</li> <li>・集めた情報を並べ、自分のテーマに合っているか、知りたい情報かどうかを考え、取捨選択する。その際、比較・検討する視点を与え、自分が集めた情報を並べて考え書き込みをし、教師に送信する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集めた情報を、付箋機能を使ってカテゴリごとに分けたり保存したりできるため、<b>必要な時に情報を取り出すことができる。</b></li> <li>・集めた情報（付箋）を並べて比較、検討して、伝えたいことを明確にすることができる。</li> <li>・教師は、<b>個々が収集、整理の状況や集めた情報を一括して確認できる</b>ため、手立てを考えることができる。</li> </ul>	第5学年「よりよい学校生活のために」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題に対する情報を付箋にまとめ、タブレット上でカテゴリで分けたり線でつないだりして整理する。（マッピング・クラゲチャート等）</li> <li>・付箋を並べ、目的に合った情報を精査し、取捨選択する。</li> </ul>
	<b>○内容・構成の検討</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・考えや根拠となる事例を、タブレット上で付箋にまとめ、原稿（スピーチメモ）を構成する。</li> <li>・必要に応じて、集めた情報を資料として活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット内で自由に書き込みをしたり、追加したり消去したりすることができ、<b>考えを整理できる</b>。また、必要に応じて入れ替えるなど、<b>構成が容易にでき、思考を可視化できる</b>。</li> <li>・集めた情報や意見を書いた付箋など、タブレットの画面を映すことで、<b>プレゼン資料としても活用できる</b>。</li> </ul>	第5学年「提案しよう、言葉とわたしたち」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の意見を支える根拠としてどの根拠を取り上げるとよいかを検討し、根拠となる付箋を並べ替えたり、マーカーで書き込みをしたり線でつないだりして、意見を支えるものになっているかを比較・検討する。</li> <li>・提案内容や集めた情報をまとめ、資料としてタブレット上に表示して提示する。</li> </ul>
構成の検討、考えの形成・表現、共有・話し合いの進め方の検討	<b>○モデル動画の提示</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師から全員にモデル動画を提示し、視点を与えて視聴させる。（比較させる）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モデル動画を繰り返し視聴することができ、<b>着目させたい部分を強調できる</b>。</li> <li>・必要に応じて<b>繰り返し視聴できる</b>。</li> </ul>	
	<b>○考えの共有</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分がどの立場で考えているかをタブレット上に示したり、立場によって付箋や背景を色分けし、そこに自分の意見、根拠を記述したりして教師へ送信する。</li> <li>・教室の大画面に児童たちのシートを映し、互いの立場や考えを共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを教師に送信することで、教師が<b>児童の考えを把握できる</b>。</li> <li>・通常、発表者の意見しか聞くことはできないが、大画面で共有することで、<b>互いの立場を知ることができる</b>。</li> <li>・自分の立場が<b>どう変容したかを自覚することができる</b>。</li> </ul>	
	<b>○自分（集団）の表現の確認</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の話している様子や集団での話し合いを撮影する。</li> <li>・撮影動画を再生し、改善箇所を探して練習を繰り返す。必要に応じてペアや小集団で撮影動画を視聴し合い、よさや改善点を助言し合ったり話し合ったりする。</li> <li>・改善後の様子を再度撮影し、学習前と学習後の自分（集団）の様子を比較する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分や集団の話す様子を<b>客観的に見る</b>ことができ、<b>目的や相手、意図に応じて表現できているかを自覚する機会</b>になる。また、繰り返し聞いたり、必要な部分だけを確認したりすることで、ポイントを絞って改善することができる。</li> <li>・<b>見届け・評価を短時間で</b>行うことができる。</li> </ul>	第6学年「今、私は、ほくは」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・スピーチをタブレットで撮影し、仲間と共有する。（個でも可）</li> <li>・互いに聞き合い、改善点やよい点を実際の場面を見ながらコメントする。</li> <li>・改善部分を録画して、前の様子と比べる。</li> </ul>



## 【思考力、判断力、表現力等 B 書くこと】における学習支援ツールの活用（小学校）

資質能力	I C T 活用方法	期待できる効果	活用例
題材の設定・情報の収集・内容の検討	<b>○情報の収集</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>テーマに沿って各自情報収集し、タブレットに保存する。集めた情報は他の仲間と共有することもできる。</li> <li>集めた情報を並べ、自分のテーマに合っているか、知りたい情報かどうかを考え、取捨選択する。その際、比較・検討する視点を与え、自分が集めた情報を並べて考え書き込みをし、教師に送信する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集めた情報を、付箋機能を使ってカテゴリごとに分けたり、保存したりできるため、必要なときに情報を取り出すことができる。</li> <li>教師は、個々の収集・整理の状況や集めた情報を一括して確認できるため、手立てを考えることができる。</li> </ul>	第5学年「よりよい学校生活のために」 <ul style="list-style-type: none"> <li>課題に対する情報をそれぞれ付箋にまとめ、タブレット上で、カテゴリで分けたり線でつないだりして整理する。付箋機能を使ってマッピングも可能。</li> <li>付箋を並べ、目的に合った情報を精査し、取捨選択する。</li> </ul>
	<b>○アンケート</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>知りたいことについて、自らアンケートを作成する。</li> <li>学級の児童に配信し、回答後、返信してもらう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作成から、配信、集約までの一連の流れを、<b>短時間で効率的に行うことができる。</b></li> </ul>	
構成の検討、考えの形成、記述、共有	<b>○構成の検討</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>情報や考えをまとめた付箋、使用したい写真、図表等を並べ替えたり矢印でつないだりして構成を考える。</li> <li>必要に応じてメモを書き加えたり付箋を追加したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>タブレット上で付箋等を動かしたり、メモをしたり、複数の情報等を組み合わせたりすることが容易にでき、<b>試行錯誤しながら取り組む</b>ことができる。</li> <li>児童の進捗状況を確認、<b>手立てや評価につなぐ</b>ことができる。</li> </ul>	第4学年「もしものときにそなえよう」 <ul style="list-style-type: none"> <li>児童のタブレットにモデル文（理由・例を挙げているもの）を送信する。</li> <li>自分の意見を支える根拠としてどの根拠を取り上げるとよいかを検討し、根拠の付箋を並べ替えたり、マーカーで書き込みをしたり線でつないだりして、意見を支えるものになっているかを比較・検討する。</li> </ul>
	<b>○モデル文の提示</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>タブレットに提示された複数のモデル文を読み比べ、付箋、スポット機能等を使い、マーカーを引いたり印をつけたりして工夫を書き込む。</li> <li>教師に送信した後、教室の大画面に児童たちのシートを映して比較し、発問をして本時の課題に迫る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>タブレット内で自由に書き込みをしたり、追加したり消去したりすることができ、<b>考えを整理できる。</b></li> <li>教師が<b>児童の考えを把握できる。</b></li> <li>児童のシートを<b>並べて提示し、比較したり関係付けたりして示す</b>ことができる。また、課題の焦点化を図ることができる。</li> </ul>	
推敲	<b>○文章の推敲</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>文書作成ソフトで下書きを入力、または記述した原稿を写真にして取り込む。</li> <li>タブレット上で工夫した叙述や言葉に、罫線または、付箋等の機能を活用し、書き込みを行う。（個・ペア・グループ等）</li> <li>修正した文章を、教師に送信する。</li> <li>推敲前と推敲後の文書を比較する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>容易に書き加え、削除、並べ替え等ができるため、<b>試行錯誤して考えを上げる</b>ことができる。</li> <li>コメント機能を用いてコメントを入れるなど、<b>互いに助言し合うことに有効に活用</b>できる。</li> <li>作品に直接書き込みを行わなくてよい分、<b>意欲を低下させることなく単元の学びを進める</b>ことができる。</li> <li>意図的な表現についての<b>見届け・評価</b>を行うことができる。</li> </ul>	第6学年「たのしみは」 <ul style="list-style-type: none"> <li>つくった短歌を、タブレット上で仲間と共有する。</li> <li>互いに作品を読み合い、改善点やよい点を付箋機能を活用してコメントする。（推敲して書き込みをする）</li> </ul>



## 【思考力、判断力、表現力等 C 読むこと】における学習支援ツールの活用（小学校）

資 能 力	I C T 活 用 方 法	期 待 可 能 な 効 果	活 用 例
構 造 と 内 容 の 把 握	<b>○教材について理解する</b> ・実際の場面等を写真や動画で補足説明する。	・生活経験が不足している部分を写真や動画などで <b>視覚化して補う</b> ことができる。	第6学年「やまなし」 ・描かれている情景や物を写真で紹介する。
	<b>○初発の感想を集約する</b> ・初発の感想から、児童の印象に残ったところ、着目した点などを集計し、提示して課題を設定する。	・（教師）児童（グループ）の集めた情報や、整理の状況を <b>一括して確認</b> できるため、手立てを考えることができる。	
	<b>○各段落のつながりを明らかにする</b> ・段落の要点を付箋に書きまとめる。 ・タブレット上で付箋を並べ、文章の構造を把握する	・付箋は <b>並べかえることが容易</b> であり、グループで画面を共有することで <b>視覚化しながら学習を進める</b> ことができる。 ・（教師）紙媒体で準備する必要がない。	第4学年「アップとルーズで伝える」 ・段落の内容を付箋にまとめる。 ・タブレット上で写真や付箋を並べたり、結び付けたりしながら、段落の関係を考える。
精 査 ・ 解 釈 ・ 考 え の 形 成 ・ 共 有	<b>○根拠となる叙述を明確にする</b> ・タブレット上で考えの根拠となる叙述に線を引いたり、部分を抜き出したりして、自分の考えと結び付けて記述したり、交流時に提示したりする。	・言葉と言葉、図表などとの関係が、 <b>視覚化</b> できる。 ・ <b>線を消したり、書き替えたりすることが容易</b> であり、色分けすることで、考えの変容も分かりやすく示すことができる。共有することで交流時に根拠となる叙述を示しやすい。 ・タブレットに <b>直接書き込み、保存ができる</b> ため、必要に応じて、前場面の読みを確認することができる。教師にとっては、 <b>評価にも活用</b> できる。	第5学年「大造じいさんとガン」 ・児童のタブレットにワークシートを送信する。 ・登場人物の心情をタブレットに書き込み、共有する。または、ワークシートに記入してタブレットで撮影し、共有する。仲間の考えや着目した叙述と比べ、自分の考えを練り直す。 ・タブレット上の前時までの場面（板書やまとめ）の記録と比較して、登場人物の心情の変化を捉える。
	<b>○情報を正確に読む</b> ・タブレット上に、印や矢印、付箋等を付けながら言葉と言葉、文と文、文と図表等を関係付けて読む。 ・印を付けた部分と自分の考えをつないでタブレットやノートに記述したり、交流時に提示したりする。		
	<b>○考えを共有する</b> ・タブレットに提示された読みと自分の読みを比較して、考えを広げたり、深めたりする。 ・個々の読みをタブレット上で共有する。 ・仲間が着目した叙述や考えを自分の読みと比べる。 ・一人読みを再考してタブレット上で共有する。 ・教室の画面に子供たちのシートを映し、考えを比較し、発問をして本時の課題に迫る。	・自分で選択して仲間の考えを知ることができるため、 <b>主体的な取組につながる</b> 。 ・自分のペースで取り組むことができ、仲間の考えをヒントにして <b>考えを再構築</b> できる。 ・（教師）自分の考えを教師に送信することで、教師が <b>児童の考えを把握</b> できる。また、課題の焦点化を図ることができる。	



## 【知識及び技能】における学習支援ツールの活用（小・中学校）

資力	I C T 活用方法	期待できる効果	活用例
言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>○漢字や文法の小テストの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師から送付された小テストや、ドリル学習用のワークシートに取り組む。</li> <li>・教師に送付して、返信された結果を見直す。</li> <li>・結果の集計をもとに、苦手な部分に繰り返し取り組む。</li> <li>・家庭学習でも活用。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業を早く終えた児童生徒が空いた時間等に自主的に学習を進めることができ、<b>待ちの時間を生み出さない。</b></li> <li>・<b>取り組んだことがタブレット内に蓄積</b>されるため、間違えたところや苦手なところを自分で確かめることができる。</li> <li>・データであるため、<b>個々の実態に合わせて、ワークシート等を繰り返し使用することが容易</b>にできる。<b>(個別最適な学び)</b></li> <li>・(教師側) 個々の<b>学習状況を一括して確認</b>できるため、手立てを考えることができる。</li> </ul>	<p>各学年 漢字、文法等の学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・例文を参考にしながらタブレット上で文章を作る。</li> <li>・仲間と共有して、多くの漢字・熟語に触れる。</li> </ul>
情報の扱い方に関する事項	<p>○情報の提示</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章中の事物について、動画や写真をタブレット上で提示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(教師側) 動画や写真を提示することで、<b>児童生徒の生活経験の差を補ったり、より豊かに内容を想像できるような支援</b>をしたりすることができる。</li> </ul>	<p>全学年 図表等が用いられている教材</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図表が使われている本や新聞記事をタブレット上に取り込む。</li> <li>・図表やグラフの効果について付箋機能等を使ってまとめる。</li> <li>・自分の考えに合うように文章と対応させて提示したり引用したりする。</li> </ul>
	<p>○情報の管理・活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集めた情報や必要な情報をフォルダ等にまとめておく。</li> <li>・集めた情報をタブレット上で共有する。</li> <li>・グループ分けをしてフォルダ等にまとめる。</li> <li>・言語活動を行うときに必要に応じて、情報を活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(教師側) 必要な情報をまとめておくことで、<b>児童生徒の発達段階、学習内容に適したデータベースが作成</b>できる。</li> <li>・<b>必要な情報を効率よく自分で探す</b>ことができる。</li> </ul>	
我が国の言語文化に関する事項	<p>○古文独特のリズムに親しむ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・古文の音読を聞いたり、動画で伝統芸能を視聴したりする。</li> <li>・自分の音読の様子を録画してリズムに親しむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古文独特のリズム等を実際に聞いて、音読しながら親しむことができる。</li> </ul>	<p>全学年 古典教材</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル教科書等を活用して動画を視聴する。</li> <li>・音読の様子を録画し、動画と比べて録画を見返したりして、自分の音読に生かす。</li> <li>・古典の世界を知る。</li> </ul>
	<p>○教材について理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実際の場面や物を写真や動画で補足説明する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的背景や教材の特徴などを、写真や動画などで<b>視覚化して補う</b>ことができる。</li> </ul>	
	<p>○書写</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の二次元コードを活用するなどして、手本を動画で確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>自分が確認したいタイミングで、必要なポイントを確認</b>することができるため、自主的な取組ができる。</li> </ul>	<p>全学年 書写の学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のペースに合わせて、手本動画を繰り返し見ながら練習する。</li> </ul>



## 日常の授業（全領域・全単元）における学習支援ツールの活用（小・中学校）

I C T 活用方法	期待できる効果
<p><b>○情報の収集・分類・整理</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・端末を使って知りたい情報を収集し、保存する。</li> <li>・相手や目的、意図に応じて情報を分類・整理する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集めた情報を、カテゴリごとに分けたり保存したりできるため、<b>必要な時に情報を取り出すことができる。</b></li> <li>・個々がどのような資料を収集、分類しているか把握できるため、<b>評価や支援につなぐことができる。</b></li> </ul>
<p><b>○学習計画の提示</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元学習計画や本時の学習計画等を個々のタブレットに送信し、本時の学習の見通しをもたせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掲示物を作成しなくても、画面に映し出して全体で確認したり、児童生徒全員に送信することで、必要に応じて、<b>単元における本時の位置や、前時までの内容を確認したりできる。</b></li> </ul>
<p><b>○資料提示</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材に応じて、時代背景や写真、図表などを資料として提示し、教材内容についての理解を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活経験が不足している部分を写真や動画などで<b>視覚化して補うことができる。</b></li> <li>・個々に送信することで、<b>必要に応じて自由に見ることができる。</b></li> </ul>
<p><b>○板書の共有</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時間、授業後に板書を撮影して個々の端末に送信する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>場面と場面をつないで考えたり、前時までの学習を振り返ったりするために、自由にタブレットで確認する。</b></li> </ul>
<p><b>○振り返りの蓄積</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りを記入したノートを写真に残し、送信する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の<b>指導改善に生かしたり、記録に残すことで評価の資料としたりすることができる。</b></li> <li>・児童生徒は、<b>学びを振り返ったり自己の変容を自覚したりすることができる。</b></li> </ul>
<p><b>○辞書としての活用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調べたい語句の意味や使い方を調べ、保存する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・机上の辞書と併用して、調べたことを「語彙手帳（例）」に保存していくことで、<b>必要に応じて再度確認できる。</b></li> <li>・調べた言葉についてまとめたりスピーチをしたりする言語活動につなげることができる。</li> </ul>
<p><b>○考えの可視化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集めた情報や考えを図などで表し、伝えたいことの順序や構成を考えたり、発表で資料として活用したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事柄の関係性を理解したり、考えをまとめたりする際に、複数の情報（事実・考え）を並べたり図式化したりすることで<b>理解を深めることができる。</b></li> <li>・資料を使って考えを発表する際に活用できる。</li> </ul>
<p><b>○考えの共有</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大画面で全員の考えを並べて提示したり、意図的に取り出して提示したりする。</li> <li>・個々で考えたことを、グループや全体に送信し、発表の際の資料として活用したり、仲間と考えを共有したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が一括して考えを把握できるため、全体交流の際に<b>意図的に指名して課題を焦点化したり、発問を工夫したりできる。</b></li> <li>・指名された発表者以外の考えも全体で共有することができるため、<b>考えを比較しながら自分の考えをまとめたり、個人追究で参考にしたりできる。</b></li> </ul>